

主 題：神の慰め

聖書箇所：コリント人への手紙第二 1章3-7節

テーマ：私たちクリスチャンは、どのような苦しみの中にあっても、神の慰めによって、励まされ、支えられ、また同じように他の人をも慰めることができるのです

きょうはⅡコリント1：3-7を通して、“神の慰め”ということのみことばを学んでいきたいと思っています。

さて、クリスチャンであろうと、まだ救いをいただいていない人たちであろうと、私たちの人生は喜びや楽しみよりも苦しみや悲しみの多い人生であると言えるかもしれません。しかし、そのような中であっても、私たちクリスチャンはその苦しみ、悲しみに耐え、乗り越えていく力——これこそ神の慰めですが——をいただくことができます。きょう私たちはその慰めがどこから来るのか、またその慰めとはどのようなものなのかをみことばを通して学んでいきたいと思っています。

このⅡコリントは、ある人たちは別名「慰めの手紙」と呼んでいます。1：3は慰めの源なる神の姿、4節前半は慰めの神の働き、4b-5節は慰められた者の応答、そして6-7節は慰めによるパウロたちとコリントの人々との関係というアウトラインで見たいと思います。

聖書をお持ちの方は、きょうの聖書箇所Ⅱコリント1：3-7を開いてください。

Ⅱコリント1：3-7

「:3 私たちの主イエス・キリストの父なる神、慈愛の父、すべての慰めの神がほめたたえられますように。 :4 神は、どのような苦しみのときにも、私たちを慰めてくださいます。こうして、私たちも、自分自身が神から受ける慰めによって、どのような苦しみの中にいる人をも慰めることができます。 :5 それは、私たちにキリストの苦難があふれているように、慰めもまたキリストによってあふれているからです。 :6 もし私たちが苦しみに会うなら、それはあなたがたの慰めと救いのためです。もし私たちが慰めを受けるなら、それもあなたがたの慰めのためで、その慰めは、私たちが受けている苦難と同じ苦難に耐え抜く力をあなたがたに与えるのです。 :7 私たちがあなたがたについて抱いている望みは、動くことはありません。なぜなら、あなたがたが私たちと苦しみをともにしているように、慰めをもともにしていることを、私たちは知っているからです。」

1. 慰めの源なる神の三つの姿 3節

パウロはまず3節で、慰めの源なるキリストの姿について記しています。この3節の終わりには、「ほめたたえられますように」ということばが書かれています。旧約においても、主は「ほむべきかな」という神への賛美は多くの箇所にも記されています。特に詩篇においては各巻の最後の篇は、「ほむべきかな」という賛美で終わっています。41：13、72：18-19、89：52、106：48、今挙げたところが各巻の最後の篇ですが、72：18-19をお読みします。「:18 ほむべきかな。神、【主】、イスラエルの神。ただ、主ひとり、奇しいわざを行う。:19 とこしえに、ほむべきかな。その栄光の御名。その栄光は地に満ちわたれ。アーメン。アーメン。」、ほかの箇所もこの「ほむべきかな」ということばで終わっているのですが、この詩篇の一番最後の150篇では「主をほめたたえよ」、また「神をほめたたえよ」ということばが11回も繰り返して記されています。もちろん新約においても同じです。私たちの神は常にいつでもどこでもほめたたえられるべきお方です。それは、すべてのものをお造りになり、今も生きて働いておられる方だからです。そしてこの「ほめたたえられますように」ということばは神に栄光を帰する表現となっています。ここでパウロは、慰めの源なる神の三つの姿について言及しています。

1) 「私たちの主イエス・キリストの父なる神」

まず一つは、「私たちの主イエス・キリストの父なる神」と書かれています。新約の時代に入って、明らかになった主イエス・キリスト。そしてその主イエス・キリストの父なる神として、ここでは「私たちの主イエス・キリストの父なる神」とパウロは記しています。この父なる神は、この地上にお遣わしになった御子イエス・キリストを通して、ご自身を表されました。「ピリポ。……あなたはわたしを知らなかったのですか。わたしを見た者は、父を見たのです。」、イエス様はピリポに対してこのように言われました。それがヨハネ14：9に記されています。そして御子イエス・キリストは父なる神のみこころを行うためにこの地上に来られたと述べています。「わたしが天から下って来たのは、自分のこころを行うためではなく、わたしを遣わした方のみこころを行うためです。」、ヨハネ6：38でイエス様はこう言われました。そして、そのみこころとは、御子イエス・キリストが自分の贖いのわざを通して、罪人たちを救うことでした。皆さん、よくご存じのヨハネ3：16には「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである」と書かれています。

2) 「慈愛の父」

慰めの源となる神の最初の姿を「私たちの主イエス・キリストの父なる神」と記したパウロは、二つ目に「慈愛の父」と教えています。この「慈愛」ということばはなかなか難しく、2017年版の聖書には「あわれみ深い父」と書かれていると思います。私たちにとってはこちらの方がよく理解できるかもしれません。「慈愛」とは神のあわれみ、また思いやりを表すことばです。あわれみ、それは心優しく、愛にあふれた神の思いやりを言い表しています。ルカ6：36「あなたがたの天の父があわれみ深いように、あなたがたも、あわれみ深くしなさい。」、またこの「慈愛の父」のことを旧約でもあわれみ深い方ということばで記しています。出エジプト34：6には、「【主】、【主】は、あわれみ深く、情け深い神、怒るのにおそく、恵みとまことに富み」、そして申命記4：31では「あなたの神、【主】は、あわれみ深い神であるから」と教えています。

3) 「すべての慰めの神」

そして三つ目が「すべての慰めの神」です。これも新改訳第二版では理解の難しいことばですが、2017年版はすごく理解しやすいことばで書かれてあります。「あらゆる慰めに満ちた神」、それがすべての慰めの神だということです。この「慰め」は、ただ単にその苦しみに同情するという意味ではなくて、用いられているギリシャ語からすると、「励ます」とか「強く勧める」、「勇気づける」、「強める」という意味を持っています。今、学ぼうとしている3-7節の間に、「慰め」とか「慰める」ということばが10回も出てきています。この「慰め」に満ちたお方は、苦しみの中にいる者たちを励まし、また力づけてくれるお方だということです。

2. 慰めの神の働き 4 a 節

続けてパウロは、4節の前半でこのあらゆる慰めに満ちた神の働きについて教えています。

① 私たちを慰めてくださる

4-5節をお読みします。「:4 神は、どのような苦しみのときにも、私たちに慰めてくださいます。こうして、私たちも、自分自身が神から受ける慰めによって、どのような苦しみの中にいる人をも慰めることができます。:5 それは、私たちにキリストの苦難があふれているように、慰めもまたキリストによってあふれているからです。」、この「慰めの神」、この方は「どのような苦しみのときにも、私たちに慰めてくださる」と書かれています。私たち人間に苦しみが入ってきたのは罪の結果であることは明らかです。創世記1：31神の創造の結果は「非常に良かった」と記されています。ですからこの時には人間には苦しみはありませんでした。人間が罪を犯した結果、この苦しみはさまざまな形で私たちのところに入って

きました。それは他の人との争い、また肉体的な苦痛、心の悩み、苦しみ、罪に陥ること、そして最後は死です。このような形で私たちに苦しみは入ってきたのです。

a. どのような苦しみの時にも

しかし、私たちはこの苦しみを乗り越えていく力、また解決する力が自分にはないことを知っています。詩篇の作者は、詩篇 31 : 9 で「私をあわれんでください。【主】よ。私には苦しみがあるのです。」と告白しています。慰めの源なる方だけが私たちの苦しみに光を当ててくださり、その光によって私たちは慰められる、パウロはこのことをよく知っていました。パウロはさまざまな苦しみを経験したと聖書の中で、私たちに教えています。同じ 1 : 8 - 9 では、アジアで会った苦しみは死を覚悟するような苦しみであったと述べた後、10 節で神はその危険から自分たちを救い出してくださいましたと記しています。パウロは死の危険から救い出されただけではなくて、どのような苦しみの中にあっても、慰めの神から励ましを受け、力づけられるという恵みをいただいたのです。同じ II コリント 4 : 8 - 9 には「:8 私たちは、四方八方から苦しめられますが、窮することはありません。途方に与っていますが、行きづまることはありません。:9 迫害されていますが、見捨てられることはありません。倒されますが、滅びません。」とあかししています。パウロは確かにこの慰めの神から励まし、力づけられていたということです。

私たちもパウロと同じように、どのような苦しみの中にあっても慰めをいただくことができます。なぜか？それはそのような主だからです。ヘブルの記者はこのように教えています。「主は、ご自身が試みを受けて苦しまれたので、試みられている者たちを助けることができになるのです。」（ヘブル 2 : 18）、そうです、このような神なのです。この慰めの神が、苦しみの中にいる私たちを励ましてくださり、力づけてくださり、前へ進む力を与えてくださるのです。皆さんもきっとさまざまな苦しみの中にあつた時、また困難な状況の中にあつた時、この神の慰めを経験されたのではないのでしょうか？私も皆さんと同じです。私に及んだその慰め、励ましは、神を知れば知るほどさらに私を支えてくださり、前へ強く押し出してくれる力になりました。恐らく皆さんにとっても、そのような慰め、励ましの力となったのではないのでしょうか？

b. どのような慰めをもってか

そしてこの慰め、どのような慰めをもって、私たちに慰めてくれるのか？先ほども言いましたが、この「慰め」と日本語に訳されているギリシャ語のことばは、「励ます」とか「強く勧める」とか「勇気づける」、「強める」といった意味を持っています。I テサロニケ 3 : 2 では「それは、あなたがたの信仰についてあなたがたを強め励まし」と書かれています。この「強め励まし」というのが「慰め」ということです。マタイ 5 : 4 では「悲しむ者は幸いです。その人たちは慰められるから」と同じことばが使われています。そしてエペソ 6 : 22 では「また彼によって心に励ましを受けるためです」、この「励まし」ということばは「慰め」と同じギリシャ語が使われています。それは苦しみの中にいる人たちをただ単に同情するという表面的な思いではなくて、この後 6 節でパウロはその力について述べていますが、それはその人たちを励まし、その苦しみを耐え抜き、前に進む力を与えてくださる、これこそが神が与えてくださる慰めです。6 節でパウロは「その慰めは、私たちが受けている苦難と同じ苦難に耐え抜く力をあなたがたに与えるのです。」と述べています。

3. 慰められた者の応答 4 b - 5 節

このような働きをされた慰めの神、そしてその慰めを受けた者の応答が 4 節の後半から 5 節に記されています。「:4 ……こうして、私たちも、自分自身が神から受ける慰めによって、どのような苦しみの中にいる人をも慰めることができます。:5 それは、私たちにキリストの苦難があふれているように、慰めもまたキリストによってあふれているからです。」と。今、私は新改訳第二版をお読みしましたがけれども、2017 年版の聖書には「それで私たちが神から受ける慰めによって、あらゆる苦しみの中にある人々を慰めることができます。」と書かれています。「こうして」、「それで」ということばが使われていま

すが、これは前の文章を受けて、そういうわけだからということです。苦しみを先に経験した私たちは、今まさに同じような痛みや悲しみの中にいる人たちをも慰めることができるとパウロは教えています。私たちは他の人のために、神に代わって救いをもたらすことはできません。しかし、自分たちが苦しみや悲しみの時、神が与えてくださった慰めを、今、痛みや悲しみの中にいる人たちに分かち合えるのです。私たちがみずからの痛み、悲しみを通して、人生の困難な中にいる人たちに慰め、励まし、力づけることができるのなら、私たちの先に与えられた経験は積極的な意味を持つのではないのでしょうか？まさに神が私たちを用いてくださるということです。

しかし、この時、私たちは思い違いをしてはいけません。この慰め、励ましを他の人に与えることができるのは、私たちの力ではないということです。それは私たちを慰め、励ましてくださったその方の力によって、痛みや悲しみの中にいる人たちに慰めることができるということです。これは、私たちの信仰の歩みにおいて与えられた神の恵みを、神は私たちを通して他の人たちにもお与えになることができるということです。

そしてパウロは、なおもそのことを5節で私たちに示しています。なぜ私たちは他の人を慰めることができるのだろうか？5節には「私たちにキリストの苦難があふれているように」と書かれています。この「あふれている」ということばは「豊かにある」とか「十分にあり」という意味を持っています。旧約のイザヤ53章で述べられている苦難のしもべ、その方が私たちの主イエス・キリストです。私たちクリスチャンがキリストのしもべとしてキリストに仕える時、私たちはキリストの苦難にあずかる者となったのです。パウロはピリピ1：29で「あなたがたは、キリストのために、キリストを信じる信仰だけでなく、キリストのための痛みをも賜ったのです。」と述べています。同じようにペテロも1ペテロ4：13で「むしろ、キリストの痛みにあずかれるのですから、喜んでいなさい。それは、キリストの栄光が現れるときにも、喜びおどる者となるためです。」と述べています。

しかし、5節の後半を見ていくと、キリストの苦難があふれているだけではなく、「慰めもまたキリストによってあふれているからです」とパウロは書いています。そうです、主イエス・キリストの慰め、励ましにも私たちはあずかる者となったのです。そのような私たちを通して、また私たちを用いてキリストは他の人たちにも同じ慰めを注いでくださるのです。自分自身が神から受ける慰めによって、どのような痛みの中にいる人をも慰めることができます。実際に皆さんの中には、痛みの中にいる人たちと慰めを分かち合った方がきつとおられることでしょう。この慰めの神は他の人を慰め、励まし、勇気づけるために私たちを用いてくださるのです。パウロがこの4節で述べていることは真実です。

4. 慰めによるパウロたちとコリントの人々との関係 6-7節

そしてパウロは6-7節を通して、この手紙の宛先であるコリントの人々と自分たちとの関係について述べています。「:6 もし私たちが痛みにあうなら、それはあなたがたの慰めと救いのためです。もし私たちが慰めを受けるなら、それもあなたがたの慰めのためで、その慰めは、私たちが受けている苦難と同じ苦難に耐え抜く力をあなたがたに与えるのです。:7 私たちがあなたがたについて抱いている望みは、動くことはありません。なぜなら、あなたがたが私たちと痛みをともにしているように、慰めをもともにしていることを、私たちは知っているからです。」。

a. パウロは、4節で述べたことが、自分たちとコリントの人々との関係においても神が働かれた。

6-7節で、パウロは自分たちとコリントの人々の関係において、慰めがどのような働きをしたのかを記しています。まず、パウロたちの痛みは、あなた方の慰めと救いのためですと述べています。パウロたちの福音宣教の働きに伴った多くの痛みは、コリントのクリスチャンたちを励まし、また力づけるものとなったのです。そしてそのパウロたちの働きによって、コリントの人々に救いの道が備えられただけでなく、コリントの人たちに霊的成長をもたらすものとなったのです。そしてパウロは、私たちが受けた慰めも、あなた方の慰めのためだと述べています。先ほども言いましたけれども、パウロ

が4節で述べたことは本当に真実です。そしてそれが自分たちとコリントのクリスチャンとの関係においても、慰めの神がなされたことだとパウロは言うのです。慰めの神は、パウロたちが苦しみの中にあった時、慰め、励まし、耐え抜く力を与えられました。この神は、コリントのクリスチャンたちにもその慰め、励ましを同じように与えることができる方です。

b. コリントの人々との関係の二つ目のこと

またパウロは7節で、コリントの人々との関係について述べています。ここでパウロは「**私たちがあなたがたについて抱いている望みは、動くことはありません**」と言います。なぜパウロはこのように言うことができたのでしょうか？7節の最後に「**私たちは知っているからです**」とパウロは言っています。この「**知っている**」ということばは、ただ単に頭で知識を理解しているということではなくて、自分たちの体験を通して知っていると言っているのです。

◎パウロたちの望みが動かされなかった二つの理由

①苦しみをともにしている

その一つ目の理由は、「**あなたがたが私たちと苦しみをともにしている**」とパウロは言います。この「**ともにしている**」ということばは、あらゆるものをともに分かち合い、担い合うことを意味しています。5節で「**私たちにキリストの苦難があふれている**」とパウロは言っていました。キリストのしもべとして主に仕える時、パウロたちも、コリントのクリスチャンたちも、ともにキリストの苦難にあずかる者となりました。「**苦しみをともにしている**」——コリントのクリスチャンたちが味わったその苦しみは、パウロたちが経験した苦しみと同じ苦しみであったということです。

②慰めをもともにしている

そしてパウロはその後、「**慰めをもともにしている**」と述べています。確かに今、苦しみの中にあるけれども、その苦しみによって弱り果ててしまうのではなくて、そこから慰められ、励まされ、力づけられて立つ力を、パウロたちも受けたように、コリントのクリスチャンたちも受けているとパウロは確信していたのです。コリントのクリスチャンたちに対して、パウロたちの望みが動かされることがなかったのは、この慰めの神ご自身が彼らを励ましてくださることを、パウロたちは自分たちの体験を通して知っていたからでした。このように神の慰めを通してパウロたちとコリントの人々の関係はさらに近いものとなっていきました。

○まとめ

さて、皆さん、私たちはどうでしょうか？先に神の慰めを受けた私たちは、ますます神との関係を深めているのでしょうか？そして周りの人たちにこの神からいただいた慰めを分かち合っているのでしょうか？もしそうでないならば、私たちはこの慰めを分かち合う者として成長したいものです。きょう、私たちはこのコリント人への手紙第二から、「**神の慰め**」ということで、みことばを学んできました。まとめはこうです。私たちの神は慰めの神です。どんな苦しみの中にあっても、私たちに慰めてくださるお方です。その神によって慰めを受けた私たちは、同じような苦しみの中にいる周りの人たちを神の助けによって慰めることができる者とされたということです。そして、この神の慰めは、ただ単に同情的なもの、表面的なものではなくて、実際に苦しみに打ち克つ励ましの力です。またその苦しみに耐え抜いて強く立つことのできる力、これが神の下さる慰めです。私たちはこの神の慰めをもう一度覚えて、私たちの周りにいる人たちに、この慰めを分かち合っていきたいと思えます。